

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 18 年 4 月 13 日 (2006.4.13)

【公開番号】特開 2000-69495 (P2000-69495A)
 【公開日】平成 12 年 3 月 3 日 (2000.3.3)
 【出願番号】特願 平 11-47041
 【国際特許分類】

H 0 4 N 9/66 (2006.01)

H 0 4 N 11/18 (2006.01)

【F I】

H 0 4 N 9/66 C

H 0 4 N 11/18

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 2 月 23 日 (2006.2.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 初期デジタル S E C A M カラー信号の復調方法であって、

前記 S E C A M カラー信号は、異なる周波数を有する 2 つの標準カラー搬送波の一方ずつによりそれぞれ変調された 2 つのカラー成分を有し、

前記 S E C A M カラー信号が単一のミキシング周波数を用いた単一の直角ミキサで処理されることを特徴とする復調方法。

【請求項 2】 請求項 1 に記載の復調方法であって、

x は前記ミキシング周波数の余弦関数をかけられた直角ミキサ出力信号であり、y は前記ミキシング周波数の正弦関数をかけられた直角ミキサ出力信号として、

前記 S E C A M カラー信号をさらに変調し、後で微分されるべき S E C A M 位相信号を得るため、2 つの直角ミキサ出力信号 x と y の関数 $\arctan(y/x)$ を、特に座標回転デジタルプロセッサにおいて計算することを特徴とする復調方法。

【請求項 3】 請求項 2 に記載の復調方法であって、

前記ミキシング周波数は前記 2 つの標準 S E C A M カラー搬送波周波数を含んでその間の周波数範囲にあり、

標準以外のマッチするカラー搬送波ミキシング周波数によって誘起されるバイアス効果は前記 $\arctan(y/x)$ を計算した後の対応するクランピング動作により補正されることを特徴とする復調方法。

【請求項 4】 請求項 3 に記載の復調方法であって、

前記バイアス効果を S E C A M カラー復調に必要なライン識別に使用することを特徴とする復調方法。

【請求項 5】 直角ミキサを用いたデジタル復調方法であって、

前記デジタル復調は P A L、N T S C、または S E C A M カラー信号復調であり、

前記直角ミキサは P A L または N T S C カラー成分を出力し、S E C A M の場合には x 信号と y 信号とを出力し、

S E C A M の場合、

前記直角ミキサのミキシング周波数を標準 S E C A M カラー搬送波周波数の中の 1 つの周波数にラインごとに交互に切り換えるステップと、

x 信号と y 信号から関数 $\arctan(y/x)$ を、特に座標回転デジタルプロセッサ

において計算するステップと、

$\arctan(y/x)$ 信号を微分するステップと、を実行し、

SECAMカラー成分はUラインとVラインの識別により取得されることを特徴とするデジタル復号方法。

【請求項6】 請求項2ないし5いずれか一項に記載の方法であって、

自動カラー制御のための制御信号として使用する振幅値 $(x^2 + y^2)$ を計算することを特徴とする方法。

【請求項7】 請求項1ないし6いずれか一項に記載の方法であって、

デジタルPALまたはNTSCカラー信号の復調に、対応して選択したミキシング周波数とともに前記直角ミキサを使用することを特徴とする方法。

【請求項8】 直角ミキサを用いたデジタル復調装置であって、

前記装置はPAL、NTSC、またはSECAMのカラー信号復調に好適であり、

前記直角ミキサはPALまたはNTSCカラー成分を出力し、SECAMの場合にはx信号とy信号とを出力し、SECAMの場合、単一のミキシング周波数を標準以外のマッチするカラー搬送波ミキシング周波数によって誘起されるバイアス効果で使用し、

SECAMの場合、関数 $\arctan(y/x)$ を計算する前記直角ミキサ、特に座標回転デジタルプロセッサに続く段階と、

$\arctan(y/x)$ 信号に微分とクランピングを実行する後続段階と、前記バイアス効果は対応するクランピング動作により補正され、SECAMカラー成分はUラインとVラインの識別により取得されることを特徴とするデジタル復調装置。

【請求項9】 直角ミキサを用いたデジタル復調装置であって、

前記装置はPAL、NTSC、またはSECAMのカラー信号復調に好適であり、

前記直角ミキサはPALまたはNTSCカラー成分を出力し、SECAMの場合にはx信号とy信号とを出力し、SECAMの場合、ミキシング周波数を標準SECAMカラー搬送波周波数の中の1つの周波数にラインごとに交互に切り換え、

SECAMの場合、関数 $\arctan(y/x)$ を計算する前記直角ミキサ、特に座標回転デジタルプロセッサに続く段階と、

$\arctan(y/x)$ 信号に微分を実行する後続段階と、

SECAMカラー成分はUラインとVラインの識別により取得されることを特徴とするデジタル復調装置。

【請求項10】 請求項8または9に記載の装置であって、

前記座標回転デジタルプロセッサにおいて、自動カラー制御のための制御信号として使用する振幅値 $(x^2 + y^2)$ も計算することを特徴とする装置。